一、2021年度の事業報告

＊コロナ禍のなかでも、会員の協力の下に、慎重かつ積極的に研究所活動を行ってきた。研究所は時差通勤で皆勤、羽田野さんが事務局次長に就任(2021.1 ～)。※別紙「活動の記録」(所報毎号の日誌欄から)

(1) 機関会議等

＊ 44回総会・記念講演会「ジェンダーと政治」をユーチューブで放送
＊理事会、第1回 (21.06.30) 第2回 (21.08.20)、第3回 (21.10.11)、 第4回 (21.12.13)、第5回 (2022.02.22)、第6回 (22.04.18)
＊運営委員会・・上記理事会と同日に計6回開催
＊会計監査 (22.04.18)

(2) 研究、啓発、組織活動等の日常活動（日誌）

(別紙「活動の記録」を参照)
＊研究所が入居している公社設立博多駅前ビルの管理組合理事長を、事務局長が99年4月より務めている。任期は2年で入居以来4、5度目の理事長（役員は6度目）で、都心部の博多駅前にしては珍しく自治のあるマンションとして知られている。建設以来49年目で大規模修繕の時期を迎えている。

(3) 第41回福岡県自治体フォーラムの開催

10月24日、コロナ禍のなか研究所、自治労連、日中文化センター等5会場でオンライン・Zoom開催

(4) 小イベントの開催

◎第11回地域の歴史と自然を訪ねる旅「春爛漫 瀬戸内の旅 尾道と鞆の浦散策」は、一昨年20名の参加申し込みをいただくも、コロナ禍で延期のやむなきに至り、3年間実施できず。

(5) 講師派遣活動

◎多数の会員のご協力で各地域、各団体、個人の要請に応じて講師活動、講師派遣紹介活動に取り組む（その一部は日誌欄参照）

(6) 全国活動

◎第63回全国自治体学校（2021.7.17 ～ 18）はコロナ禍でDVD+Zoom開催。
◎全国研総会 (21.05.30)、翌日全国研・地域研事務局長連絡会議、コロナ禍でオンライン開催、欠席。

(7) 国際交流活動

◎第22回研究所韓国旅行は、韓国の戦後現代政治の画期の光州事件を訪ねる企画を、計画していたがコロナ禍で引き続き延期。母体の2か月に一回の福岡コリア研究会は粘り強く継続。

(8) 出版・書籍普及、情報発信活動

◎一昨年出版の「地域から創る民主主義・・・福岡からの発言」(宮下和裕著、自治体研究社刊、B5判、224ページ、定価2000円＋税）や、「市町村産業連関表・2015年版一式」(宮崎康徳編著）等研究所や協力団体・個人の書籍の普及に努めたが、対面式の大規模行事ができなくて普及に困難をきたした。

◎会員の参加で、研究所のホームページの抜本的に充実に尽力。「福岡みやした・めーるじょうほう」（「抄」を所報にも掲載）など、インターネットを活用した情報発信と交流に努めた。

(9) 所報「福岡の暮らしと自治」を毎月発行し、3月号で531号の定期発行を実現!

各号力作が相次ぎ合計180ページ（前年より42ページの増）。地域の課題の解明に取り組み、会員配付以外分も適宜増刷して普及に取り組んだ。「拙五句」も毎号、好評連載。主な論考は、以下の通り

4月号（520号）◎糸島市中小企業振興基本条例について（柳明夫）、コロナ禍の今、福祉行政の現状を憂う（羽田野盛仁）◎地域で鍛えられてきた総合的人間力　『地域から創る民主主義』に寄せて（三角富士夫）、◎「味ひろ」・犬丸昇さんへの弔辞（宮下和裕）

5月号（521号）◎防衛大いじめ人権裁判　福岡高裁逆転判決（井下　顕）◎新型コロナ対策、国・自治体予算を読む（宮崎康徳）、◎研究所・第44回会員定期総会議案

6月号(522号)◎自治体戦略2040構想とまちづくり(コンパクト・シティ)、その県内の動き(宮崎康徳)、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）◎大分県の河内辰子会員よりお手紙、◎相変わらずモノカキに精進しています（永尾廣久）

7月号（523号）◎研究所43回総会・記念講演特集～「ジェンダーと政治」①私の想い～ジェンダーの視点から（片山純子）、ニュージーランドから学ぶジェンダー平等（大谷史子）、③台湾のクオータ制から学ぶ女性の政治参加（王　貞月）、◎44総会・開会のごあいさつ（石川捷治）、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、◎朝日新聞書評「斎藤文男著・多数決は民主主義のルールか？」（花伝社）

8月号（524号）◎校則について考える（三角富士夫）、御塚隆満さん、ありがとう、先輩の志を受けついでこれからも（横山孝雄）、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、◎小沢和秋さんからの最後のハガキ

9月号（525号）　◎熱海の土本流災害を考える（多賀直恒）、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、◎「住民と自治」創刊700号に寄せて・「全体の奉仕者」論と「不断の努力」を（原田松美、住民と自治誌9月掲載）、◎新事務局の抱負（羽田野盛仁、住民と自治誌8月号掲載）

10月号（526号）　◎栄山江流域の前方後円墳と九州勢力の展開―韓半島前方後円墳と九州勢力の残影―（工藤常泰）、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、第41回福岡県自治体フォーラム案内

11月号（527号）◎優生保護法とは何だったのか～優生保護法違憲国賠訴訟を巡る情勢を踏まえて～（池永　修）、◎福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、◎山形県の高橋会員よりお便り

12月号（528号）　◎第41回福岡県自治体フォーラム・記念講演特集、明治からの女性解放運動～伊藤野枝を中心として（矢野寛治）、◎「福岡みやした・メールじょうほう・抄（宮下和裕）、◎諫干結審の報道から

1月号（529号）　◎2022年・私たちの課題―新年のご挨拶（石川捷治）、◎第41回福岡県自治体フォーラム分科会特集　第1分科会　コロナ禍と自治体・公行政のあり方、①コロナ禍でのデジタル庁の発足から見えるもの（懸谷一）、②コロナ禍の今、進む公行政の空洞化（羽田野盛仁）、③福岡市の特区問題（原田松美）、第2分科会　災害とまちづくり、①大牟田市における風水害の歴史と今後の取り組み（栗原敬幸）、②2017年九州北部豪雨朝倉からの報告（片井克美）、2021年熱海・土石流問題を考える（多賀直恒）、第3分科会 ①なぜ福岡市に平和資料館か（堀田広治）、ドイツにおける過去の克服―追及、教育、補償、記憶（星乃治彦）、第4分科会　今日の中国問題をどう見るか―中国の覇権主義的行動の背景と現在（星野　信報告、横山孝雄・記録）、五・特別講座 過去の映画作品から考える日本とヨーロッパの女性史（矢野寛治）、◎岸田政権発足と2021年総選挙（宮下和裕）ールじょうほう」抄（宮下和裕）

2月号（530号）　◎「赤木ファイル」は民主主義の灯、～森友疑惑事件の幕引きを許さないために）（羽田野盛仁）、◎福岡みやした・メールじょうほう（抄）（宮下和裕）

3月号（531号）　◎大牟田自治（体）研のあゆみ（永尾広久）、◎福岡みやした・メールじょうほう（抄）（宮下和裕）、◎北九州市逆線引き問題（宮崎康徳）

(10) 組織的到達点（2022.3.13現在，カッコ内は前年3･14、発送作業時）

◎会員数　445人（444人）
　うち個人会員425人（425）、
　団体会員20団体（20）
◎「住民と自治」読者数　320人（349）人
◎賛助会員口数　約26口（約17口）

＜事業報告書付属明細書＞・・特に記載すべきことはない。